

小学校と連携した横浜市内生物調査

子ども「いきいき」生き物調査 について

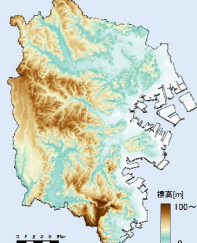
横浜市環境科学研究所 七里 浩志、堀 美智子、小森 昌史、潮田 健太郎、川村 頤子

はじめに

横浜市生物多様性地域戦略では、子どもたちへのプロモーションの重要性を挙げています。“子ども「いきいき」生き物調査”は、地域の自然や生き物への関心を高めてもらうこと、生物多様性保全に資する基礎データを得ることを目的として、2013年に開始した市内生物調査です。



【横浜市】
人口 約370万人
面積 約435km²
標高 ~約160m
緑被率 約29% (2014年調査)



横浜の標高
(国土院調査、東京都環境局調査結果を元に作成)



緑の10大観測点
(国土院のデータに基づき、2013年6月)

調査方法

横浜市立小学校の5年生に夏休み前に調査票(右図)を配布し、過去1年間(前年の9月1日から当該年の8月31日まで)に家や学校の近く(学区内)で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。



市立小学校は2016年4月1日現在342校、5年生は約30,000人です。2016年は162校、10,984人から回答を得ました。調査票は、5年生以外にも、参加希望のあった他の学年にも配布しました。

調査結果

小学校ごと、生き物ごとに確認率(生き物確認者数/回答者数)を算出しました。その後、小学校の位置情報と合わせてGISソフトを用いて空間補間(クリギング法)を行い、市内全域について確認率の高低を色の濃淡で表現しました。

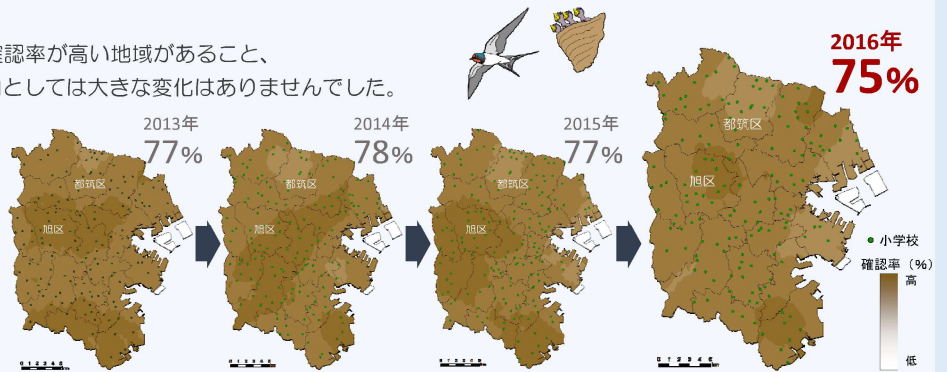
ツバメの巣

4年間を通して共通した特徴があり、旭区周辺に確認率が高い地域があること、都筑区周辺に低い地域があることなど、分布の傾向としては大きな変化はありませんでした。

市全体の確認率は2013年から順に77%、78%、77%と安定していたものが、2016年に75%となり、**統計的に有意に減少している**ことが分かりました。

巣を作る場所や巣立ち後の幼鳥が休息する河川敷などの環境が減少し、ツバメは全国的に減少傾向にあり、今後も定期的に調査します。

※数字は市全体の確認率を表しています。



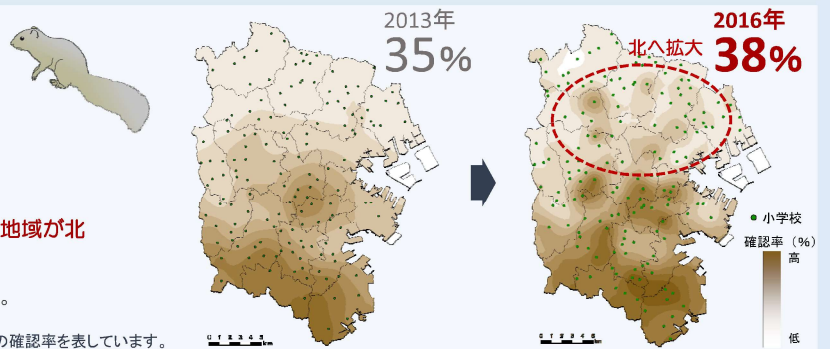
リス(外来種)

横浜市内にはホンドリスは生息せず、クリハラリス(タイワンリス)が生息しています。クリハラリスはもともと横浜には生息していなかった外来種で、南部を中心に生息し、北部には生息していないか、非常に少ない傾向にあります。

2016年の調査では、2013年の調査と比較して**確認率の高い地域が北へ広がっている**様子が確認されました。

市全体の確認率も上昇し、**統計的にも有意に増加**していました。

※数字は市全体の確認率を表しています。

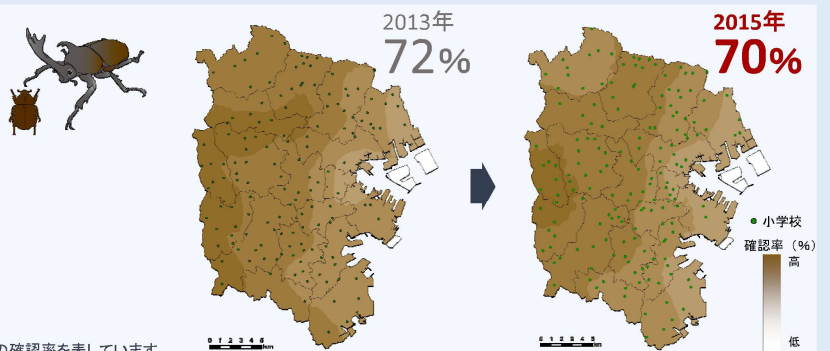


カブトムシ

市の西側での確認率が高く、東側の臨海都市部で低い傾向は、2013年、2015年と変わりありませんでした。里山の環境を指標する生き物として調査を行いました。確認率は、おおむね市内の地形や緑被分布と一致するようです。

市全体の確認率は2013年から2015年にかけて2ポイント減少し、**統計的に有意に減少**していましたが今後の動向が注目されます。

※数字は市全体の確認率を表しています。



おわりに

各年の調査結果報告書および結果概要は、全小学校に配布するとともに、横浜市環境科学研究所Webページで公開しています。本調査は、調査対象とする生き物の選定、組合せ等を工夫することにより、効率的かつ広域的な生物調査の手段として有効と考えられ、市民科学を活用した取り組みとして今後も継続して実施する予定です。